

『中外日報』紙上に輝く『成寿』

「善光寺開創二十五周年」と「留学僧育英会創立十周年」を特集した『成寿』二十三巻秋季号は、皆様から大変ご好評をいただきました。九月八日付の『中外日報』紙に内容が詳細に掲載されましたので本誌で皆様にご紹介いたします。

聖徳太子像を奉安

横浜・善光寺（黒田武志住職）の機関誌『成寿』第二十三巻・秋号が刊行された。同寺開創二十五周年と善光寺留学僧育英会設立十周年の記念特集号で、三月と五月に挙行されたそれぞれの記念祝典の様子が写真と記事で克明に報告されている。巻頭のカラータグラビアを大本山總持寺の諸堂伽藍で飾り、特別読み

物として駒沢女子大学の東隆眞教授・副学長（横浜善光寺留学僧育英会理事）による「聖徳太子讃仰―善光寺 聖徳太子像奉安にちなんで―」などを収載。その他、各方面からの声や便りが満載されている。『成寿』は毎号、国内外の寺院や関係機関等に三千五百部以上が配布されている。紙面はA5判で百六十ページを越える圧巻。

善光寺が創立二十五周年の記念報恩行の一つとして、錦戸新観仏師謹刻の聖徳太子像を奉安した意義について、東隆眞教授は「宗祖（曹洞宗でいえば高祖道元禅師と太祖瑩山禅師の両祖）を通して釈尊にかえる』を誓願とする黒田住職にとって、聖徳太子をお迎えすることは、仏教の歴史的原点、宗教的発祥である釈尊に直結する道元禅師、瑩山禅師の教えを学び、実践する善光寺のゆくてに新しい大きな光をお迎えするにふさわしいものとな

善光寺ニュース

ろう。同時に、はからずも善光寺は聖徳太子をおまつりする曹洞宗寺院の先駆的な役割をになうことになった」と讃え、「日本の伝統仏教がこぞつて尊崇し、道元禅師、瑩山禅師また称揚してやまぬ聖徳太子の存在について、曹洞宗の私どもは認識をあらためなければならぬ」と力説している。

「道元禅師は袈裟を被着する聖徳太子を讃美し、瑩山禅師は仏舍利をにぎって生まれたという聖徳太子を讃嘆した」ことが正法眼蔵や伝光録に記されている。奉安された太子坐像は、楠材の一木造り。極彩色で、総丈百二十センチ、身長六十センチ。「奈良・法隆寺に秘蔵する国宝、摂政太子像に通ずる親しみ深い御姿である」という。

前角老師にハリス記念賞

ニューヨーク市立大学の創立者であるタウンゼント・ハリスを記念する「ハリス創立記念賞」の今年度（平成六年度）の該当者に、ロサンゼルス禅センターの前角博雄主監（黒田方丈の実兄）とその僧伽が選ばれ、十月五日にニューヨークの同大学でシンポジウムと受賞式が開催されました。この賞は日米関係の未来像やリーダーシップにおいて、その進展に貢献した個人またはグループに毎年一回贈られています。前角老師の僧伽は、ホームレスの子供やエイズ患者の救済活動などの社会活動も行っています。同大学日本委員会理事長のジェームス・J・シールズ氏は「本学と日本仏教との歴史的交流の立場から、我々は一九九四年度の受賞者は、アメリカの白梅

会の前角博雄師とその同僚以外にないと考えた」と選定の理由を述べています。受賞式には前角老師、その門下のバーナード徹玄グラスマン、ジョン大道ローリーの両師も出席。受賞式に先だって「アメリカの禅」のテーマでシンポジウムが行われました。

ハリスは幕末に初の日本総領事に任命され、一八五六年、伊豆下田の曹洞宗玉泉寺にアメリカ領事館を置き、日米和親条約の改定を行なった外交官として歴史に名を残す。ちなみに玉泉寺の村上庸道住職は最近、下田の人々から集めた浄財により、ニューヨークにあるハリス氏の墓を新装したということです。

韓国へ答礼の旅

横浜善光寺留学僧育英会の黒田武志理事長、佐藤俊明常務理事（千葉県柏市・龍光寺住

職）、東隆眞理事（駒沢女子大学副学長・教授）の三人と、（財）松ヶ岡文庫長の古田紹欽博士は十月二十五日、韓国慶尚南道にある仏宝宗刹、靈鷲山通度寺に拝登しました。今回の訪韓目的は二つで、一つは通度寺の老天月下方丈が三月に来日し、善光寺留学僧育英会の設立十周年記念式典に臨席されたので、これに対する答礼。もう一つは、老天月下方丈が大韓仏教曹溪宗の第九代宗正（管長）に就任したことに祝意を表すためです。古田博士は日本仏教学界の代表として訪れました。案内役は善光寺育英会の元育英生で通度寺僧侶の李俊秀和尚（早稲田大学大学院生）と、通度寺聖宝博物館長の釈梵河和尚がつとめてくださいました。詳細は本文をご参照下さい。

黒田住職が総和会・獄山会北信越管区 大会の準備委員会で基調講演

「今、二十一世紀へおもしろいやりの心を新たにし、信頼される教団づくりを」を大会スローガンに平成七年六月七日に開催を予定している曹洞宗総和会・獄山会北信越管区大会の準備委員会（大会長は長野県伊那市・常円寺住職角田宗道老師）が昨年十一月二十五日、大会会場となる上諏訪温泉の「浜の湯」で開かれ、自坊の開創十五周年を記念して海外留学僧派遣育英会を設立し、この十年の間に六十人に及ぶ留学僧を国内外から採用してきた善光寺・黒田武志住職が基調講演の講師に招かれました。

「善光寺留学僧育英会」の理事長である黒田住職は「法燈は海を越えて」と題して一時間半にわたり熱弁をふるい、ゼロから出発し

て「無一物中無尽蔵」を実践してきた自らの捨て身の体験を語り、九十人を越える参会者の感動と共感を呼びました。

成願寺「小笹会」発足 黒田方丈が相談役主席に

東京都中野区の成願寺（小林貢人住職）が「成願寺学術研究振興基金へ小笹会」を設立し、善光寺黒田武志方丈が相談役主席として役員の一人に任ぜられることになりました。

〈小笹会〉は仏教ならびにアジア・アフリカ地誌を中心とする学術研究振興助成と、勉学の志に燃える学徒の生活相談という二大目的をもっていきます。対象は仏教徒のみならず、広く内外に門戸を解放し、学術の研鑽にいそしむ前途有為の逸材を発掘し、研究助成、生活援助を通じて心おきなく勉学に精進できる道への潤滑油となるよう設定されるものです。

横浜善光寺留学生生育英会は「仏教を修学する者」という規定があり、海外に派遣、海外から日本に受け入れるという点が小笹会とは異なっています。

平成七年度の募集が始まります。お問い合わせは郵便で。

〒164 東京都中野区本町二ノ二六ノ六

宗教法人成願寺 小笹会 まで。

特別養護老人ホームで 黒田方丈が講話

三月十日(金)、黒田方丈は横須賀市の特別養護老人ホーム・横須賀愛光園(聖隷福祉事業団、施設長・福山恭之氏)に招かれ、「生きるよろこび」と題して約一時間講話をしました。ここでは平均年齢七十六歳という男女五〇名(定員一杯)が入居しており、中には寮母さんのお世話なしには生活できない人もいます。



善光寺ニュース

黒田方丈は六波羅蜜をやさしく説いたへ六つの願いへの、

あたえよう、物でも心でも（布施）

生きよう、人間らしく（持戒）

耐えよう、どんなことにも（忍辱）

努めよう、自分の仕事に（精進）

おちつこう、息ととのえて（禅定）

目ざめよう、仏の道に（智慧）

と、日々のくらしの中で大切にしていきたい

五つの心へ日常の五心への、

一、すみませんという反省の心

一、はいという素直な心

一、おかげさまという謙譲の心

一、私がありますという奉仕の心

一、ありがとうという感謝の心

二枚のちらし（善光寺発行）をもとに語りかけ、お年寄りにも生きるよろこびを持ってほしいと一語一語に誠意をこめました。

後日、施設長の福山恭之氏から、次のようなお礼状をいただきました。

先日は「生きるよろこび」と題して、第一回の文化講演会のご講演誠にありがとうございました。ございました。

日々生かされていることに感謝し、今日一日を精一杯生きるというご主旨であった様に思います。講演後も余韻が残り、お年寄りは、ご住職から頂いた彼岸に到る等の本を熱心に目を通しておられました。又、この様なお話しを是非続けてほしいとの声もあがっております。

この講演会は私共の施設の基本方針である、お年寄りの幸せ追求への一つである「苦しみなく、大往生して死にたい」への精神的援助（心のケア）としての一環として組み込まれたものであります。又、継続して行っ

善光寺ニュース



施設長・福田恭之氏と黒田方丈



ていきたいと思っております。ほんとうに
ありがとうございます。感謝、感謝であり
ます。又、機会を作り、ご住職には是非も
う一度、ご講演をお願いしたいと思います。
お会いできることを楽しみにしております。